

鳥取県新型インフルエンザ等対策行動計画（素案）の意見募集結果の概要

意見募集の期間：平成25年10月23日（水）から平成25年11月11日（月）まで

受付意見数：3件

（主な意見）

意見（概要）	対応方針
<p>現在の行動計画では、海外発生期においては感染症指定医療機関のみが「帰国者・接触者外来」を設置することとなっていますが、実際を考えればフェーズにこだわることなく、この運用を柔軟にする仕組みを作り、計画に盛り込むことが必要。</p> <p>「帰国者・接触者外来」には症例定義にあう患者を診察するものとして、その機能を明確にしておく等が行動計画に必要。</p>	<p>基本は、国内発生期において、感染症指定医療機関以外にも「帰国者・接触者外来」を拡大するという流れとなりますが、「患者受診状況等必要に応じて、帰国者・接触者外来を設置する医療機関の拡大について、前倒し検討及び実施を行う。」旨の記載を追記します。</p> <p>また、受診時の混乱のないよう、県民等へ受診方法の周知を図る旨の記載を追記します。</p>
<p>新型インフルエンザの罹患・重症化・死亡リスクを減らすためには、生活習慣病対策、とりわけ喫煙・受動喫煙防止推進が最も重要な対策のひとつです。新型インフルエンザ対策としてタバコ対策は非常に有効なので、これらの対策を行動計画に盛り込むべき。</p>	<p>季節性インフルエンザでは、一般的に、慢性閉塞性肺疾患、喘息等の持病のある方は重症化しやすいとされています。本計画においても予防接種の優先接種対象の想定に医学的ハイリスク者（呼吸器疾患、心臓血管系疾患を有する者等発症することにより重症化するリスクが高いと考えられる者）を含めているところです。</p> <p>なお、喫煙は、呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患）のみならず、がん、循環器疾患、糖尿病、等の危険因子であることから、県としては、禁煙及び受動喫煙対策への重要性についての認識しており、鳥取県健康づくり文化創造推進プラン等に基づき、各種の禁煙等の対策を講じております。</p>
<p>抗インフル薬備蓄について、リレンザの備蓄量の増量や、2010年に新規登録、発売に至ったラピアクタ（ペラミビル）及びイナビル（ラニナミビル）も備蓄の対象として検討されるべきではないでしょうか。</p> <p>パンデミック発生時は医療機関が混雑し、診療の順番を待っている間に症状が重篤化したり、院内感染のリスクも生じます。個人的に実施できる補完代替医療としてとしてエキナセアの活用について言及ができないか。</p>	<p>現在、県では国の備蓄方針に基づき、タミフル及びリレンザの備蓄を進めることとしております。リレンザは、国の備蓄目標が変更され、今年度新たにリレンザを追加備蓄する予定としており、今後、計画の備蓄状況（表）の適宜修正を行っていく予定です。</p> <p>また、本計画で明示する新型インフルエンザ等に係る治療については、安全で治療効果があるものに限定して記載しております。エキナセアは治療効果等が明確でないと認識しており、本計画への掲載は難しいと考えております。</p>